

国立大学動物実験施設協議会 30 周年記念誌の刊行にあたって

第 30 回国立大学動物実験施設協議会総会
主催校

京都大学霊長類研究所人類進化モデル研
究センター長 景山 節

第 30 回という節目にあたる国立大学動物実験施設協議会の総会が平成 16 年 6 月に犬山市において京都大学霊長類研究所の主催で開かれることになりました。本誌は 30 周年記念誌として編纂されたものです。第 20 回総会の時に同様の記念誌が編纂され国動協の資料などが整理されましたが、その後廃止されたもの、新しく作られたものなどさまざまな変更があり、新しい資料集として最新のものを取り入れていくことを試みました。座右において活用され、国動協の発展の一助となれば本誌編纂の目的が果たされるものと考えています。

最近の国立大学における変化は目まぐるしいものがあります。最も大きなものは国立大学が 16 年 4 月から独立法人となったことで、30 回総会は法人化後の最初の総会となります。法人化の前には各大学で動物施設を含めた学内施設などの再編・統合が全国的に進められ、それにと

もなう施設名称の変更も多くありました。法人化後も再編・統合はさらに進められていくものと思います。また国の新たなプロジェクトとして実験動植物の整備を進める「ナショナルバイオリソースプロジェクト」も進行しています。一方で動物実験に対する社会の目の厳しさも増してきています。このような動物施設を取り巻く変化は、施設の改善、ガイドラインの整備、動物福祉の徹底、社会への説明などさまざまな課題を生じており、動物施設の役割の重要性が今後ますます高まることを意味しています。本誌はガイドラインをはじめとして様々な取り決め事項が資料としてまとめられており、いろいろの課題・問題を検討する時の指針としての役割を果たしてくれると信じます。

本記念誌編纂は京都大学霊長類研究所上野吉一助教授を中心として進めてきました。資料のご提供を関係各先生に広くお願いしましたが、今までの協議会の様々な資料を保存・整理されてきた歴代会長校の諸先生、各委員会の委員長ならびに委員の諸先生、および資料を提供いただいた国動協の各先生、さらにご支援をいただいた文部科学省当局に深く感謝の意を表します。